インテグレーテッド　アンプリファイヤー

AX-S313

取扱説明書

このたびはAX-S313をお買い上げいただきありがとうございます。

本機の機能をフルに生かすため、この「取扱説明書」をよくお読みいただき、末永くご愛用ください。

製品番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機背面の製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかについてお確かめください。

目次

私たちは環境資源を大切にしています。この「取扱説明書」は再生紙で作られています。

E30530-1568A

主な特長

この度はインテグレーテッドアンプリファイヤーAX-S313をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
AX-S313はパーツのひとつひとつから回路、機構、レイアウトに至るまですべてを検討、厳選し、高性能・高音質を目指して造り上げました。

■ 高剛性「Zシャーシ」

当社のアンプ設計思想である「無干渉エネルギー増幅」を受け継ぎ、シャーシの剛性を高め、かつ信号経路も最短とし、「無振動」「無共振」「無干渉」設計をこのクラスで最大限に実現しました。

■ 「アドバンスト・スーパーA」

パワーステージには、スーパーAをさらに進化させた「アドバンスト・スーパーA」回路を搭載することにより、リニアリティーが一段と向上しています。

■ 強力電源部

低磁束密度で大型のＥＩトランスを採用することにより、安定した電源を実現しています。さらに、電圧増幅部と電流増幅部の電源を独立に整流することで強力なスピーカー駆動を実現しています。

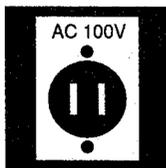
■ 共振分散型ヒートシンク

ヒートシンクを構成するフィンの長さや間隔を微妙に変えることにより共振を抑え、音質への影響を低減しています。

■ 極太のOFC（無酸素銅）電源コード（15A・2mm²）

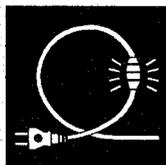
■ バナナプラグ対応スピーカーターミナル

ご注意

安全上の注意

● 電源

電源は必ずAC(交流)100Vをご使用ください。
電源周波数においては、50Hz地域でも60Hz地域でもそのまま使用できます。

● 電源コード

電源コードを抜き差しするときには、必ず電源プラグを持っておこなってください。
コードを引っぱったり、折り曲げたり、継ぎ足したり、あるいはぬれた手で触ったりした場合、火災や感電の原因となります。

旅行などで長時間ご使用にならないときには、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。

● 異常現象

煙がでている、変な臭いがする……などの故障状態のまま使用すると危険です。急いで電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

● 内部点検

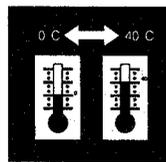
セットの内部に触れることは、危険なうえ、故障の原因となります。
内部の点検・調整は販売店にご相談ください。

● 水は大敵

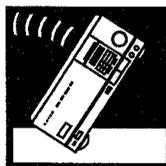
セットの上に花びんなど、水の入った容器は置かないでください。
もし水が入った場合には、電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

● 外国での使用

本機は日本国内用に作られていますので、「電源電圧」の異なる外国では使用できません。

取り扱い上の注意

● 設置の注意

末永くご愛用いただくために、次の点に配慮しながら設置してください。

- 本機は高出力アンプのため、内部の温度上昇を防ぐために、通風孔をあけております。
  通風孔をふさいで使用しますと、性能、信頼および安全性に支障をきたします。設置する場所は通風孔をふさがないようにしてください。
- 周囲温度が極端に低かったり、高かったりしたり、水気や油煙の当たる所や振動またはほこりの多い所、あるいは不安定な所には設置しないでください。

● セットの縦置き注意

セットを立てて使用することは危険です。また、セット内部の温度上昇を防ぐためにも、セットは正しく横置きにしてご使用ください。

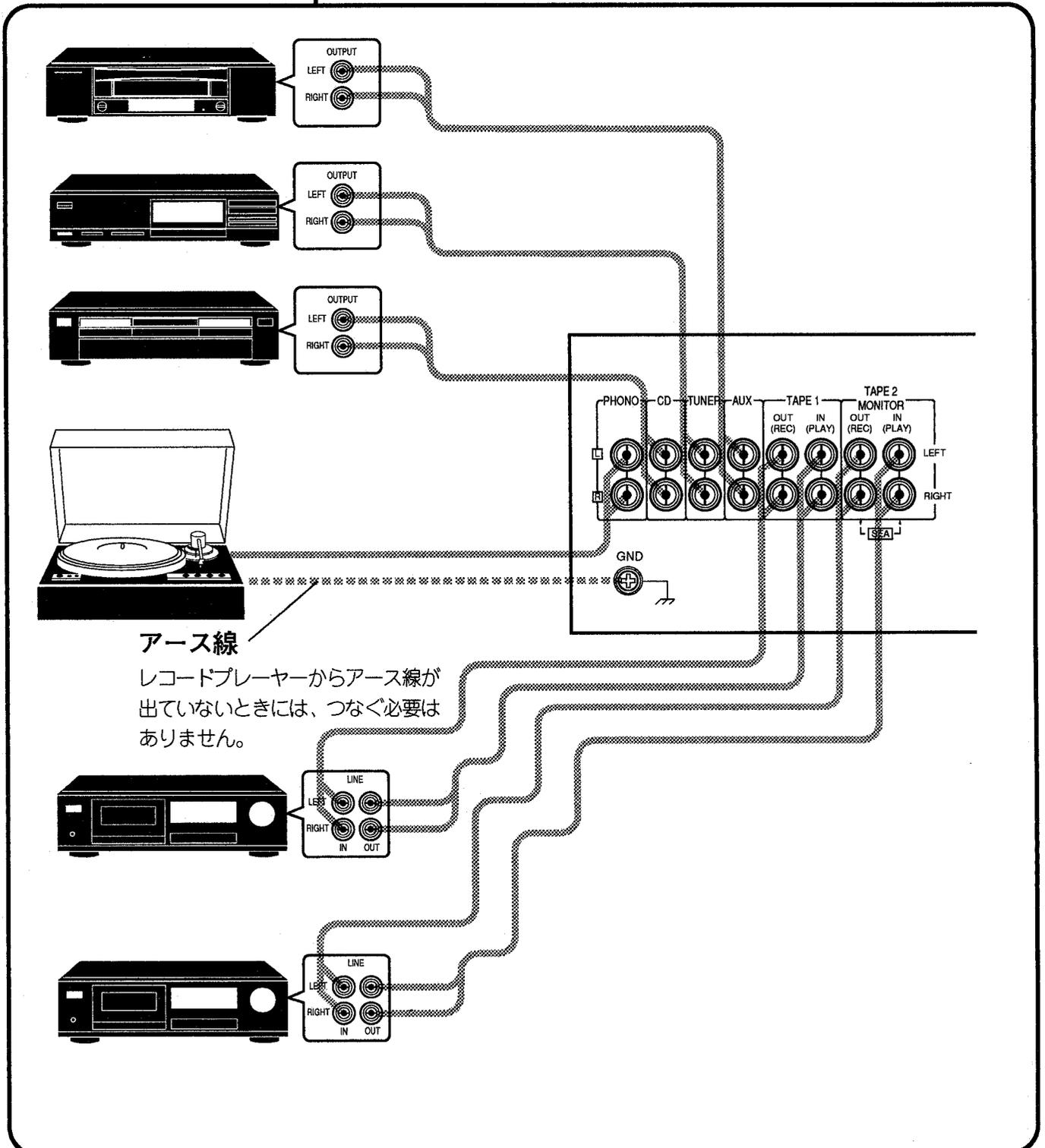
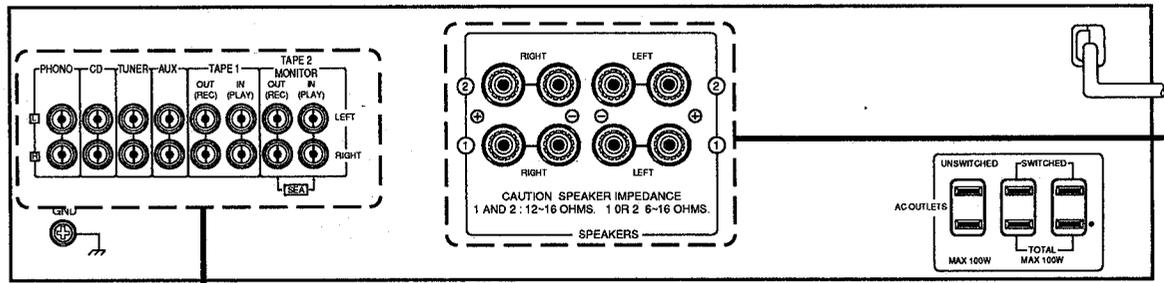
● 露付現象

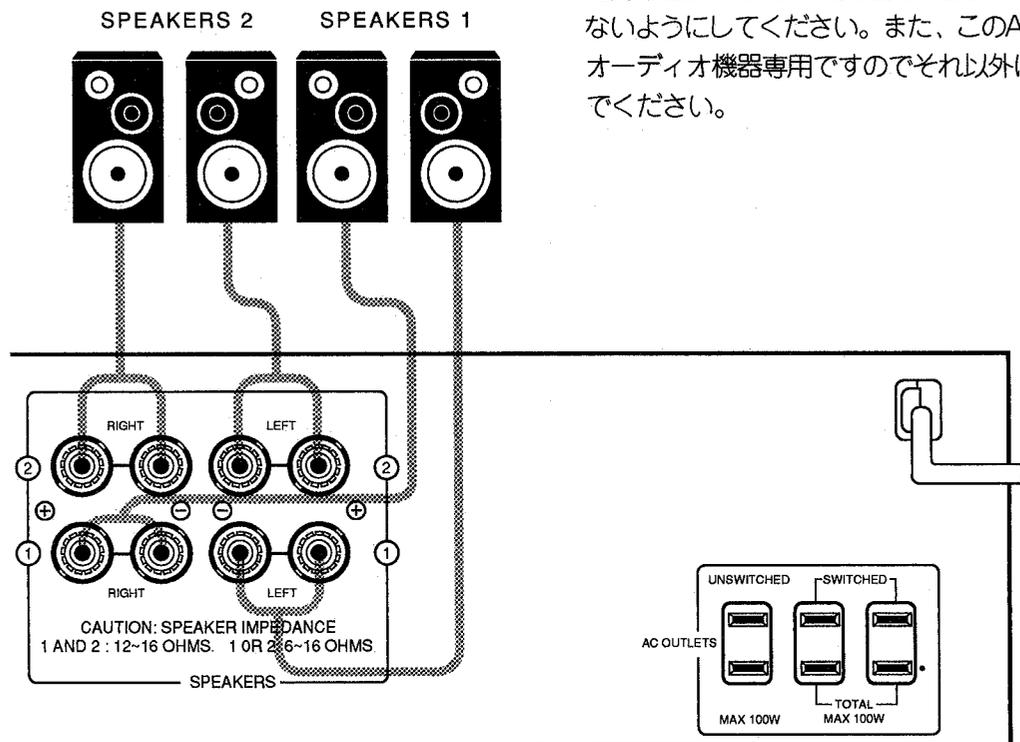
寒い所から急に暖かい所へ移動すると、移動した直後に正常に動作しないことがあります。これは動作部分に露が発生するためで、しばらくすると正常に戻ります。

● キャビネットの手入れ

汚れがひどい場合には、中性洗剤などで汚れを落とし、乾いたら柔らかい布でむらなくキャビネット全体を拭き取ってください。(ご使用の中性洗剤についてはその注意書きに従ってください。)
なお、シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけたりすると、変色することがあります。

接続のしかた

すべての接続が終わるまで、電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

スピーカーの接続・その他

- スピーカーは次のインピーダンスのものをご使用ください。
  ①または②単独使用： 6～16オーム
  ①と②の同時使用： 12～16オーム
- スピーカーコードは、L(左)・R(右)と⊕・⊖の両極を間違えずに接続してください。
- 端子中央部には、バナナプラグを接続できます。接続の際は、バナナプラグを根元まで確実に差し込んでください。
- 本機はより良い音を得るために、信号経路が短くなる下側をSPEAKERS①にしてあります。よく使う方のスピーカーをこちら側につないでください。

AC OUTLETS(電源コンセント)

他のオーディオ機器の電源コードをつなぎます。

- SWITCHED(連動)
  本機のPOWERスイッチと連動して接続した機器の電源が入／切します。
- UNSWITCHED(非連動)
  本機のPOWERスイッチの入／切に関係なく、常に電源を取ることができます。

ご注意

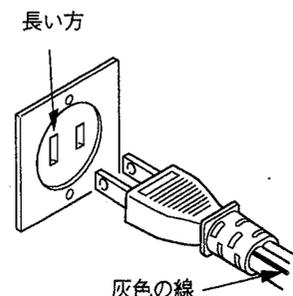
AC OUTLETSから供給できる電源には限界(容量)があります。容量は、UNSWITCHEDの差し込み口は100Wまで、SWITCHEDは2つの差込み口両方合わせて100Wまでとなっています。接続する各機器の消費電力を確認のうえ、消費電力の合計がこの範囲を超えないようにしてください。また、このAC OUTLETSはオーディオ機器専用ですのでそれ以外には使用しないでください。

電源コードの極性表示について

本機の電源コードには一方に灰色の線が入っています。これは電源の極性を表示したもので右図のように極性に合わせてACコンセントに差し込みますとより良質な音質が得られます。なお、他の機器の電源を本機のAC OUTLETSから取るときは電源コードの極性が表示されている側（白色線、灰色線、刻印など）を本機のAC OUTLETSの下側（●印のある方）へ差し込んでください。

各部の名称と機能

BASS・TREBLE

BASS:　低音を調節します。
TREBLE:　高音を調節します。
それぞれ右に回すと強調されます。
左に回すと弱められます。
通常は中央の「DEFEAT」に合わせておきます。

POWER

電源を入/切します。
電源を入れると、インジケーターが点灯します。

PHONES

ヘッドホンをつなぎます。スピーカーから音を出したくないときは、SPEAKERS 1、2スイッチをともにOFF(■)にします。

SPEAKERS 1、2

どちらのスピーカーから音を出すのかを設定します。スイッチをON(▁)にしたスピーカーから音が出ます。

- **SPEAKERS 1端子に接続されたスピーカーで聞くとき**
  SPEAKERS 1スイッチをON(▁)、SPEAKERS 2スイッチをOFF(■)にします。
- **SPEAKERS 2端子に接続されたスピーカーで聞くとき**
  SPEAKERS 1スイッチをOFF(■)、SPEAKERS 2スイッチをON(▁)にします。
- **SPEAKER 1と2端子に接続された両方のスピーカーで同時に聞くとき**
  SPEAKERS 1、2スイッチをともにON(▁)にします。
- **スピーカーから音を出さないときやヘッドホンだけで聞くとき**
  SPEAKERS 1、2スイッチをともにOFF(■)にします。

LOUDNESS

人間の耳は音量が小さくなるほど低音域と高音域が聞こえにくくなる特性を持っています。それを補正するための機能です。小音量でお聞きのとき、聴感に応じて使います。

ON(▁):　スイッチが押し込まれているとき
　　　　高音と低音が強調されます。
OFF(■):　スイッチが押し込まれていないとき
　　　　この機能は働きません。

MASTER VOLUME

スピーカーやヘッドホンの音量を調節します。

BALANCE

左右のスピーカーからの音量バランスを調節します。
右に回すと左のスピーカーからの音が小さくなります。
左に回すと右のスピーカーからの音が小さくなります。
通常は中央の「CENTER」に合わせておきます。

SOURCE SELECTOR

聞きたいソースや録音したいソースを選びます。

AUX: AUX端子に接続した機器の再生音を聞いたり録音するとき
TUNER: ラジオ放送を聞いたり録音するとき
CD: CDを聞いたり録音するとき
PHONO: レコードを聞いたり録音するとき
TAPE 1: TAPE 1端子に接続したテープデッキの再生音を聞くとき

TAPE 2 MONITOR

TAPE 2端子に接続した機器の再生音を聞くときやその機器で録音中の音を聞くときに使います。

ON(▂): スイッチが押し込まれているとき
TAPE 2端子に接続した機器からの音が聞こえます。
OFF(■): スイッチが押し込まれていないとき
SOURCE SELECTORで選んだソースの再生音が聞こえます。

ご注意

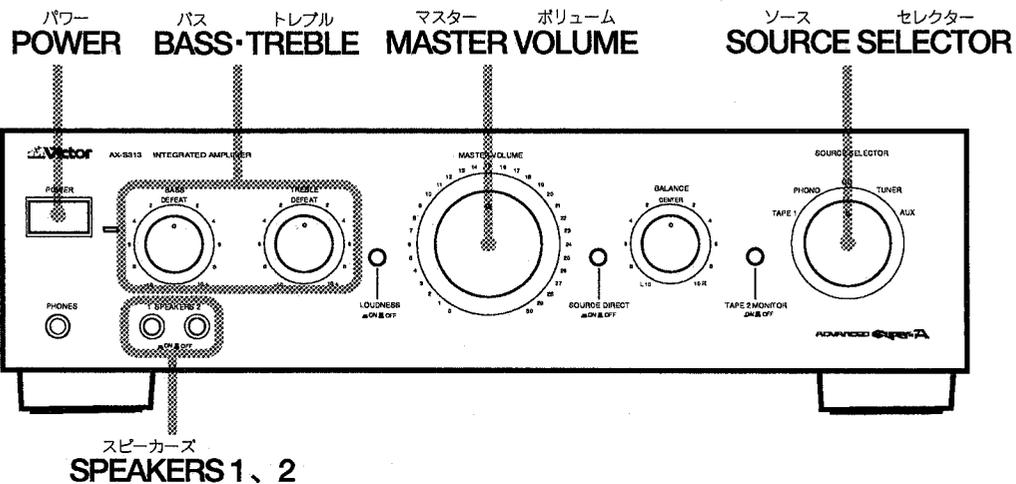
TAPE 2端子を使っていないときや、TAPE 2端子に接続した機器を使っていないときは、TAPE 2 MONITORスイッチは必ずOFF(■)にしておいてください。

SOURCE DIRECT

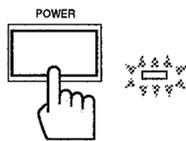
このスイッチをONにすると、SOURCE SELECTORスイッチやTAPE 2 MONITORスイッチによって選ばれた信号が、BALANCEコントロール回路、BASSコントロール回路、TREBLEコントロール回路を通らずに出力されます。より高音質な再生ができます。このときは、BALANCE・BASS・TREBLEの各コントロールは働きません。(これらの機能をお使いになるときは、SOURCE DIRECTスイッチをOFF(■)にしてください。)

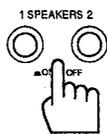
ON(▂): スイッチが押し込まれているとき
OFF(■): スイッチが押し込まれていないとき

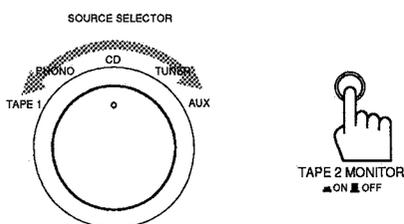
基本的な操作

電源を入れる前にMASTER VOLUMEコントロールを絞っておきます。各ソース機器は、4ページの接続図にしたがって、それぞれの端子に接続しておいてください。

希望のソースを聞く

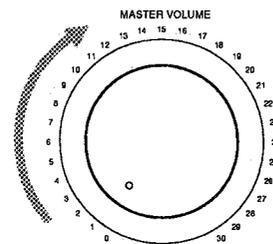
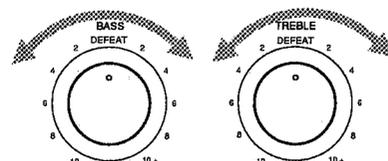
1 POWERスイッチを押す。

電源が入り、インジケーターが点灯します。

2 SPEAKERS 1、2スイッチを押して、使うスピーカーを選ぶ。

詳しくは、6ページをご覧ください。

3 SOURCE SELECTORスイッチを聞きたいソースに合わせる。

TAPE 2 MONITOR端子に接続された機器の再生音を聞くときは、TAPE 2 MONITORスイッチを押す。

4 聞きたいソースの演奏を始める。

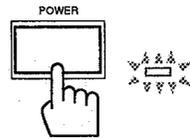
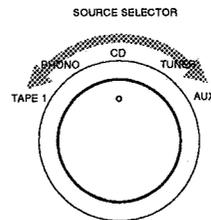
操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

5 MASTER VOLUMEコントロールで音量を調節する。

6 BASS・TREBLEコントロールでお好みの音質に調節する。

ご注意

BASS・TREBLEコントロールは、SOURCE DIRECTスイッチがON(▃)のときは働きません。

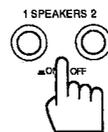
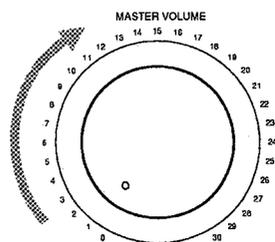
希望のソースを録音する

1 POWERスイッチを押す。

電源が入り、インジケーターが点灯します。

2 SOURCE SELECTORスイッチを録音したいソースに合わせる。

3 録音したいソースの演奏を始め、テープデッキなどで録音を開始する。

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

4 録音しながら演奏を聞くときはSPEAKERS 1、2スイッチを押して、使うスピーカーを選ぶ。

詳しくは、6ページをご覧ください。

5 MASTER VOLUMEつまみで音量を調節する。

録音する前に…

- 録音レベルの調節はテープデッキなどの録音機器で行います。
- BALANCEコントロールやBASS・TREBLEコントロールを使って、音質を調節した音を録音することはできません。
- ソースの再生音はスピーカーと背面のTAPE 1 OUT(REC)とTAPE2 MONITOR OUT(REC)端子から同時に出力されますので、演奏を聞きながら、2台のテープデッキなどの録音機器で同時に録音できます。

録音中は…

- 他のソースの演奏を聞くことはできません。SOURCE SELECTORスイッチで他のソースを選ぶと、録音されるソースも同時に切り換わります。
- 3ヘッド方式のテープデッキをTAPE 2 MONITOR端子に接続している場合、録音中にTAPE 2 MONITORスイッチを押すと、録音中の音をモニターすることができます。（テープデッキの取扱説明書も合わせてご覧ください。）

ご注意

TAPE 2 MONITOR端子に接続されたテープデッキの再生音をTAPE1端子に接続されたテープデッキで録音することはできません。

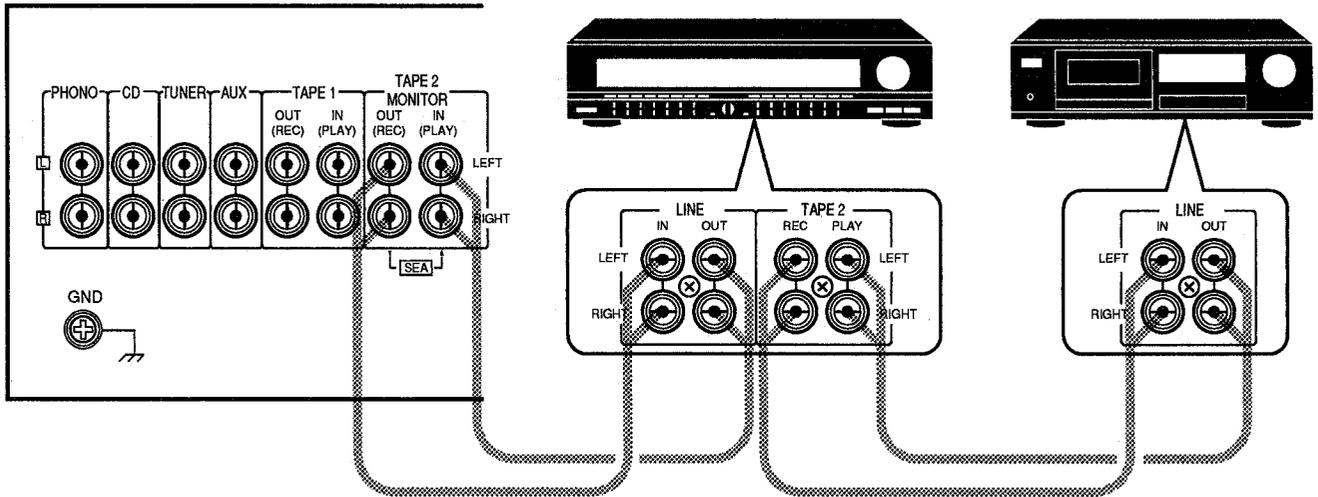
テープをダビングするときは、必ずTAPE1端子に接続された機器で再生し、TAPE 2 MONITOR端子に接続された機器で録音してください。

音のエチケット

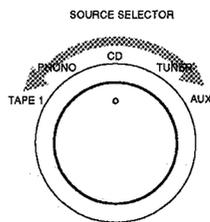
静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。音量は他人の迷惑とならないよう適度な音量でお楽しみください。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

SEA(グラフィックイコライザー)の効果を楽しむ

SEA(エスイーエー)の効果を加えた音を聞いたり、録音したりできます。

接続のしかた

操作のしかた

1 TAPE 2 MONITOR(テープ モニター)スイッチをON(オン)(▬)にする。

2 聞きたいソースをSOURCE(ソース) SELECTOR(セレクター)スイッチで選ぶ。

3 ソース機器の操作をする。(CD(シーディー)、TUNER(チューナー)など)

それぞれの機器の取扱説明書に従って操作してください。

4 SEAを操作する。

SEAの取扱説明書に従ってください。

SEAの効果を加えた音を録音するときは

上記の「接続のしかた」に従ってSEAに接続したテープデッキで録音します。

SEAに接続したテープデッキで再生するには

TAPE 2 MONITOR(テープ モニター)スイッチをON(オン)(▬)にしてください。

故障？と思う前に

おや？故障かな？と思ったら…修理を依頼する前にちょっとお確かめください。

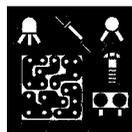
症状	原因	処置
音がでない。	接続のしかたが間違っている。	4〜5ページ「接続のしかた」を参照する。
	SOURCE SELECTORスイッチが合っていない。	再生するソースに合わせて正しく切り換える。
	SPEAKERS 1、2スイッチのON(▬)/OFF(■)の設定、または端子番号が間違っている。	SPEAKERS 1、2スイッチのON(▬)/OFF(■)を正しく設定する。
	スピーカーコードがはずれている。	接続端子をチェックする。
SOURCE SELECTORは合っているのに、音が出ない。	TAPE 2 MONITORスイッチがON (▬)になっている。	TAPE 2 MONITORスイッチをOFF(■)にする。
片側だけ音が出ない。	BALANCEコントロールが片寄っている。	BALANCEコントロールを中央にする。
BALANCE、BASS、TREBLEコントロールが効かない。	SOURCE DIRECTスイッチがON(▬)になっている。	SOURCE DIRECTスイッチをOFF(■)にする。

保証とアフターサービス

● 保証書には購入年月日が必要
この商品には保証書を添付しております。保証書はお買い上げ販売店で「販売日、販売店名」など所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

● 保証期間
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。そのほか詳細は、保証書をご覧ください。

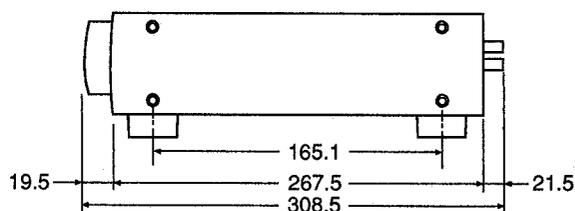
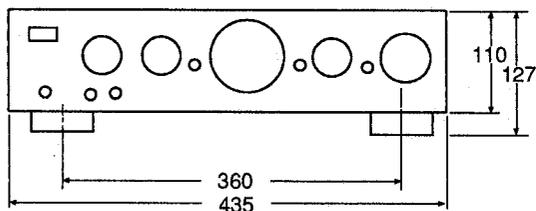
● アフターサービスのお問い合わせ
ご転居、ご贈答、その他でご不明の点は、お買い上げ販売店または別紙「ビクターサービス窓口」をご覧のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。

● 保証期間経過後の修理
保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

● 補修用性能部品の保有期間
ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 修理依頼
修理を依頼されるときは、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。
型名：AX-S313
住所、氏名、電話番号、道順
訪問希望日
故障状態をできるだけ詳しく

仕　様

項目	仕様
定格出力	65W+65W(6Ω、20Hz～20kHz、歪率0.015%)
	60W+60W(8Ω、20Hz～20kHz、歪率0.008%)
全高調波歪率	
CD、TUNER、AUX、TAPE 1、TAPE 2 MONITOR	0.003%(8Ω、1kHz、60W+60W)
	0.008%(8Ω、20Hz～20kHz、60W+60W)
混変調歪率	0.008%(8Ω、20Hz：7kHz＝4：1、定格出力時)
出力帯域幅	5Hz～50kHz(歪率0.05%)
周波数特性	5Hz～100kHz(+0dB、-3dB)
ダンピングファクター	70(1kHz、8Ω)
入力端子	入力感度／インピーダンス(1kHz)
PHONO:	2.5mV/47kΩ
CD、TUNER、AUX、TAPE 1、TAPE 2 MONITOR	200mV/27kΩ
S/N	EIAJ　IHFショートサーキット
PHONO	78dB　76dB
CD、TUNER、AUX、TAPE 1、TAPE 2 MONITOR	81dB　110dB
トーンコントロール	BASS　±8dB(100Hz)
	TREBLE　±8dB(10kHz)
ラウドネス	100Hz+6dB、10kHz+4dB(Vol、–30dB)
PHONO最大許容入力	100mV(1kHz、歪率0.02%)
PHONO RIAA偏差	±0.3dB(20Hz～20kHz)
電源電圧	AC100V(50Hz、60Hz両用)
消費電力	120W(〒電気用品取締法基準)
AC OUTLET	電源スイッチと連動2個(総合最大100W)
	非連動1個(最大100W)
重量	7.2kg
寸法	

JVC

日本ビクター株式会社

お客様ご相談センター
〒113　東京都文京区本郷3丁目14-7　ビクター本郷ビル　電話 (03)5684-9311
〒543　大阪市天王寺区小橋町10-16　大阪ビクタービル　電話 (06)765-4161
オーディオ事業部
〒242　神奈川県大和市下鶴間1644　電話 (0462)78-1725